

令和 8 年 2 月 17 日木曜日 14:00~15:00 於:株式会社ゆりかご

### 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(令和 7 年度第 2 回総評)

平均月別利用者数 **9.0 人**(令和 7 年 8 月~令和 8 年 1 月現在)(前回 13.0 人)

平均要介護度 2.62(前回 2.41)

ヒルズ入居者比率 50.0%(令和 8 年 1 月現在)(前回 50.5%)

看護付き 3 件(前回 5 件)

売上 1,650,000 円/月(前回 2,490,000 円/月)

### 主な昨年度第 2 回との自己評価比較

・理念:浸透度および実践度は、ともに高まっている。

理念浸透は、しっかりできるようになってきている。

しかし、実践としては、できていないと感じるメンバーもいる。

→できているという主観的な評価結果だが、会議回数など増えてきたことで話し合う文化は少しずつ、醸成されてきた。

・未来志向型の計画作成:状態変化を予測する意識が高まった。

前回では、「できている」11.4%が今回では **30.3%**(この質問では評価開始以降最高値)、「ほぼできている」は 74.3%から 54.5%、「できていないことが多い」は 14.3%から 15.2%となった。

看護職から介護職への指導助言でも「できていないことが多い」が前回は 5.7%(2 件)だったものが今回では 6.1%(2 件)と維持されている。

理由:定例会の回数及び内容の充実、他職種連携により、予後の見立てを踏まえうえて環境整備や人員配置、ケア内容を検討し、実践した結果としてもよいサービスという評価につながった。

行政や介護保険事業計画への意識付け:やや改善。

「できている」前回は 5.7%だったものが今回では 9.1%、「ほぼできている」は 71.4%から 60.6%、「できていないことが多い」は 22.9%から 30.3%であった。

理由:地域包括ケアシステムについての研修機会がなかった。現在は個別支援のケースについて話し合う時間が増えている。

定期巡回の依頼は減少傾向にあるが、年明け以降依頼が続けてあった。

弊社の場合、今年度に利用人数が減った理由は、死亡 1 名、卒業 3 名。心不全悪化により入院治療中に逝去。卒業は家族が入院している間の対応という依頼で、家族が元気になったので終了したケース、進行性の難病で医療依存度が高くなり、定期巡回ではなく、看護メインのプランに変更になったケース、世帯に要介護状態で精神疾患の夫婦と重度知的障害の息子と 3 人暮らして経済的に継続できずに支援終了したケースであった。

### 来年度の取組および取組予定

・働きやすい労働環境について、心理的安全性調査の継続と労働条件の選択肢を増やすことを目標としていく。それにより、職員のモチベーション向上を目指す。しかし、**離職率にはこだわらず、理念や会社で大切にしている価値観を重視し、良い仕事をしたいという人にとっての働きやすい環境づくりを目指す。**

・地域の福祉避難所として機能するために、自家発電装置を設置。電気については、3 日間天然ガスをエネルギー源とした形で、ある程度の医療機器や携帯充電などで地域に貢献できる体制が整った。

・評価を定量的に行うためにも、ICT を活用し、ご自宅で一人暮らしでも、希望すれば安心して最期まで自宅で生活できる環境整備を実施していく予定。

・売上と件数は減少した。訪問介護・全体でも月平均で約 150 万円のダウン。

原因は、重度の方がお亡くなりになったこと、年間の公休数を増やし、稼働実績が減少したことなどが考えられる。

---

## ご出席いただいた皆さまのご意見

【高齢福祉課】「利用者が減ることが悪いこと」ではないと考えていることは素晴らしい。売り上げなどの数字に出ない部分への評価をされていて良いと感じます。

【自治会会長】自分の将来を考えるとどうなるのかなと考えてしまった。特に自分が介護する側になったときはどうなるかという不安はとでもある。自分が介護される側になったときは、すぐに入所させてほしいと思っている。今まで親の介護を目の前で見ている、介護する人は夜が一番大変だと実感している。同じ思いを家族にさせたくないから。なるべく介護を受けない人生を送りたい。そのために必要なことは、運動と話すことだと思う。

私は開所当時から、この会議に参加しているが、開所当時にやろうとされていたことが、着実に近づいていると感じる。なぜ、同じような事業者が増えないのだろう。これからは、共助、共生の社会になると思う。そんなに難しいことではなく、回覧板をお隣に渡すこと、これだって共助。

また、会議の構成員として、高齢者の課題を把握している民生委員に入っただくことはどうだろうか？

⇒自分たちのビジョンとして、最後まで住み慣れた自宅で過ごせる水戸をつくるというのは、入所を否定しているものではなく、選択肢にいつでも「自宅」という選択肢がある地域をつくりたいと思っている。その人にとって最良な場所は様々。入所による安心感は自宅では同じようにすることは難しい。それぞれの良さがある。

⇒来年度より、地区の民生委員児童委員協議会の会長がご参加いただく内諾を得た。

【自治会住民代表】安心して年をとれると思えました。利用減少は良いことなのか、悪いことなのか、資料だけではわかりませんが、続けていけることを期待します。ロコミやもっと知ってもらうという啓発活動が必要ではないか。

【地域包括支援センター】夜間の対応など、本当に頭の下がる思いです。ICT活用などについては、どのような取り組みをされているのですか？

⇒現在、元タスマケアというサービスにより、緊急連絡のコールセンターシステムを常設していることに加え、排泄センサーとしておむつナビというセンサーや眠りスキャンというセンサーの活用を実施しております。リアルタイムで排泄状況がわかるだけでなく、排尿量や体の向きなどの状況もデータで把握できるため、適切な排泄用具の選定や、効果的な訪問回数や訪問時間を根拠に基づいて判断できるようになります。

また、脈拍数や呼吸数についてもわかるので、今後一人暮らしの高齢者が増える中、最後まで家で過ごしたいと思う方が。不安がないように身体状況をモニタリングできることは大きな安心につながるのではないかと考えています。

【有識者】研修をしっかりと取り組まれているので良いと思う。チームケアや連携という中での、「貢献の見える化」によるサンクスカードは、とても良い取り組みだと思う。

【医療関係者】定期巡回は単体では運営が難しいということは、改めて感じました。退院時のスタートアップとして、とても良いサービスなので継続してほしい。働きやすい環境づくりについては、労働条件などを良くしたとしても、以前よりモチベーションが下がる職員もいる。離職率にこだわらないことを周知し、誰にでも働きやすい環境ではなく、熱意をもって働く人にとって働きやすい環境を作り上げていくことが大切だと考える。

本日の会議を受けて、管理者より

様々なご意見、ありがとうございました。

ICTの活用については、本人の意志をしっかりと確認し、利便性だけでなく人権意識をもって、押し付けではなく、選択肢の一つとして提供していきたいと思えます。

福祉避難所については、飯富特別支援学校との強みの違いを考えながら、避難者の分担や駐車場の開放など地域のニーズに合わせた運用ができるように、行政と確認しながら進めてまいります。

引き続き、様々なサービスの一つという複合型のサービス利点を生かし、利用者のニーズに合わせてサービスを利用していただけるように、啓蒙活動、広報活動をしながら利用してもらえるように努めてまいります。

また、地域の民生委員さんにご出席いただけるように話してみます。